

平成 27 年度 大学評価アンケートの結果について

【回収率】

平成 27 年度実施の大学評価アンケート回収率は 80.9%で昨年度とほぼ同等であった。工学部は全体で 83.3%と高く、特に都市マネジメント学科は全学年で 90%を越える回収率であった。改善が必要な学科も見受けられるが、全学科で 80%を超える結果となった。一方、LD 学部の回収率は 75.2%であり、学科間で 68.5%から 83.1%と大きな差がある。特に安全安心生活デザイン学科では、3 年生の回収率が 53.6%と半数程度の学年もあったことから対策が必要である。

本アンケートの目的に沿い、より多くの学生の声を集めるためにも各学科で回収率を上げるための方策を検討する必要がある。

【設問 1：大学生生活満足度】

全体の「まあまあ満足」以上は過去最高の 67.0%で、「大いに不満」は過去最少の 2.3%であった。「まあまあ満足」以上の数値を学年別に見ると、1 年生 69.5%、2 年生 57%、3 年生 69.5%、4 年生 74.9%で例年と同様に 2 年生が最も低い数値であるが、昨年度より約 5%上がった。2 年生の結果で「やや不満」以下の数値を学科別に見ると、工学部では情報通信工学科、ライフデザイン学部では全ての学科で 10%を越える結果であった。特に経営コミュニケーション学科は 1～3 年生で 10%を越えており、その中でも 2 年生においては、3 割に近い学生が「やや不満」以下と回答している。この学年は、昨年度も 28.9%が「やや不満」以下の回答を占めていたため、満足度を向上させる施策を検討する必要がある。また、4 年生においては高い満足度を得ており、特に知能エレクトロニクス学科・環境エネルギー学科・経営コミュニケーション学科は「まあまあ満足」以上が 80%を越える高評価であった。今回の結果を踏まえ、各学科で満足度を向上させるための施策を検討していくことが求められる。

【設問 2・3：授業等への出席度とその理由】

「ほぼ全部出席」は過去最高値の 54.7%で、「出席が多い」以上で見ても 90.8%と高く、初の 9 割超えとなった。学部・学科別に見ても工学部では 4 学科、ライフデザイン学部では 2 学科が 9 割を超える結果であった。また、出席状況が「半々ぐらい」以下の割合も 8.9%で、初の 1 割未満となった。「欠席が多い」、「ほとんど欠席」の理由を見ると、「何もしたくない」(19 名)、次いで「その他」(11 名)で、「その他」の自由記述には「寝坊」(6 名)や「体調不良」(2 名)などが挙げられている。これは過去 2 年と同様の結果であり、欠席から単位不足→留年→休・退学につながるケースもあるため、こういった学生へのケアも必要であろう。また、全体的には評価が上がっているものの、「欠席が多い」以下と回答した学生は 47 名おり、引き続き、授業出席率の低い学生への適切な指導が必要である。

【設問4：教職員の学生支援に対する評価】

「教務関係」への支援に対する評価は、「ふつう」以上の評価が92.4%と過去最高であった。一方、「あまりやってくれない」以下の評価も4.7%と過去最少で、学年別に見ると、2年生が6.6%、3年生が4.5%、4年生が4.2%で傾向としては昨年度と同様に学年が上がるごとに低くなっている。2年生は昨年度が9.6%であったため、評価は上がっているが、4年生は昨年度が2.7%であったため、評価は下がっている。

「学生生活」への支援に対する評価は、「ふつう」以上が84.4%と過去最高で、「あまりやってくれない」以下の評価も4.8%で過去最少であった。一方、「利用したことがない」の割合が10.4%（215名）と高いため、より多くの学生が利用するような施策を検討していく必要がある。

「就職関係」の支援に対する評価は、「ふつう」以上が84%で前年度比2%低下したが、「あまりやってくれない」以下の評価は過去最少の2.9%であった。「利用したことがない」と回答した学生が、12.7%と高いが、重点的に支援している3・4年生においては、「ふつう」以上の評価が96.3%と高い評価を得る事が出来た。

「ウェルネスセンター（保健室やカウンセリング室など）」の評価は、「ふつう」以上が57.1%で前年度比3%低下したが、「あまりやってくれない」以下の割合も1.8%で前年度比1.6%低下したため、利用者の満足度は高い結果であった。

「eラーニングセンター」の評価は、「ふつう」以上が61.5%で例年と同様の結果となっている。一方、「利用したことがない」の割合が36.2%（750名）と高く、活用方法を全学的に検討する必要がある。

昨年度は、工学部とLD学部の「教務関係」、「学生生活」、「就職関係」で「ふつう」以上の評価を比較するとLD学部の方が満足度が高い結果であったが、今年度は工学部で改善が見られ、「教務関係」は93.1%で前年度比3.4%、「学生生活」では、84.0%で前年度比7.7%上昇した。今後は、両学部でさらなる満足度の向上を目指し、学生支援に取り組んでいくことが重要となる。

【設問5：施設設備に対する評価】

「教室環境」に対する評価は、「ふつう」以上の割合が八木山キャンパス95.3%、長町キャンパス93.9%であった。「不満（少し・大いに）」の割合は、八木山キャンパス4.5%、長町キャンパス5.7%で、昨年度より八木山キャンパスは評価が上がり、長町キャンパスは下がった結果になった。また、不満を感じる具体的な理由として、「空調管理が適切でない」、「黒板が小さい」、「教室が狭い」などが挙げられている。

「研修室やゼミ室」に対する評価は、「ふつう」以上の割合が八木山キャンパス54.6%、長町キャンパス75.3%であった。八木山キャンパスにおいては、前年度比2.2%低下し、長町キャンパスは、前年度比3.2%低下した。また、「不満」（少し・大いに）の評価は、八木山キャンパス2.3%、長町キャンパス3.3%で前年度と同様の結果であった。不満を感じる具体的な理由としては、「研究室によって設備に差がある」、「冷暖房をつけてほしい」などが

挙げられている。

「図書館」に対する評価は、「ふつう」以上の割合が八木山キャンパス 93.1%、長町キャンパス 92%と評価は高い。「不満」（少し・大いに）の割合は八木山キャンパス 4.2%、長町キャンパス 4.8%で、満足度は高い。不満を感じる具体的な理由は、例年と同様に「閉館時間が早い」、「本数が少ない」、「種類に偏りがある」などが挙げられている。

「食堂や売店」に対する評価は、「ふつう」以上の割合が八木山キャンパスで 48.9%、長町キャンパスで 87.4%となっている。特に八木山キャンパスでは「不満」（少し・大いに）の割合が「ふつう」以上と同じ 48.9%で、半数が不満という結果であった。また、「八木山キャンパスで最も改善してほしいと思う施設」としても、56.5%の学生が「食堂・売店」の改善を望んでいるため、対策を検討する必要がある。

「体育館や運動場、広場等の設備」に対する評価は、「ふつう」以上の割合が八木山キャンパス 89.7%、長町キャンパス 90.9%で評価は高い。「不満」（少し・大いに）の割合は、八木山キャンパス 10.1%、長町キャンパス 8.3%となっている。不満を感じる具体的な理由としては、「自由に使える時間が少ない」、「運動場がせまい」、「器具が不足」などが挙げられている。

バスの便や駐輪場など「交通」に対する評価は、「ふつう」以上の割合が八木山キャンパス 76.1%、長町キャンパス 51.7%となっており、特に長町キャンパスの評価が低い。また、「長町キャンパスで最も改善してほしいと思う施設」としても 57.6%の割合を占め、改善が求められている。不満を感じる具体的な理由として、八木山キャンパスでは「シャトルバスの時間帯が授業と合っていない」、「仙台駅からバスの本数が減って不便」、「駐輪場に屋根がほしい」などが挙げられている。長町キャンパスにおいては、「バスの本数が少ない」、「駐輪場に屋根がほしい」、「車の駐車場がほしい」などが挙げられている。地下鉄東西線の開通により、シャトルバスを運行しているが時間帯についての改善を求める声が多い。また、市営バスや宮交バスを利用する学生も未だに多くいるため、地下鉄開通の弊害として本数が減ったことに対する不満が増える結果となった。

総じて、八木山キャンパスが「食堂」、長町キャンパスは「交通」に関する不満が多く、例年と同様の結果となっていることから早急な改善が望まれる。また、「駐輪場」に関して、「屋根の設置」以外にも「外灯」や「アスファルトの整備」など環境を整えることを望む声が増えている。

【設問 6：大学院への進学とその障害】

「大学院への進学とその障害」については、「考えたことがない」という割合が工学部で 46.9%、LD 学部で 51.0%となっており、前年度から上昇傾向にある。最も障害となったことは「学費・生活費の問題」が工学部で 27.5%、LD 学部で 25.5%とこちらも前年度より高い結果となった。大学院への進学を考えたことがないという割合が上昇傾向にあることから、PR 方法や大学院進学に興味を持たせる施策を検討していくことが必要であろう。